

がれきの処理作業を行う際の注意事項

～ 事業者の皆様へ ～

土砂崩れ・浸水により被災した建物などのがれきの処理を行う際には、釘等による踏み抜きや物の落下など、多くの危険が伴います。

本リーフレットは、がれきの撤去等作業にあたって安全に作業を進めることができるよう、がれきの処理における留意事項をまとめたものです。

作業を労働者等に行わせるにあたっては、次の点に注意して下さい。

1 作業の準備にあたって注意すべき事項

(1) 作業者への教育

作業に不慣れな方も多いことから、雇入れ時などに①使用する機械、工具などの取扱方法、②作業体制、作業手順、合図などについて、教育を行うこと。また、現場では、腕章をつけるなど誰が作業責任者か分かるようにすること。

(2) 服装

長袖の作業着、安全靴など底の厚い靴、丈夫な手袋、防じんマスクなど作業にあたり適切な装備をさせること。

(3) 作業計画

周辺状況の調査を行い、指揮命令系統、作業手順、監視人も含めた人員の配置、使用する機械及びその使用箇所、がれきの運搬・搬出方法等を定めた作業計画を立てること。

(4) 作業間の連絡調整

複数の作業者が混在して同時に作業を行うことが想定されるため、作業間の連絡調整、作業開始前のミーティング等を綿密に実施すること。

(5) 危険箇所への立入禁止

倒れるおそれのある建物等には立入禁止措置を行うこと。

2 作業の実施にあたって注意すべき事項

機械を使用させるときには…

(1) 資格者の確認

車両系建設機械、クレーン等を使用させる際は、資格の有無を確認すること。

(2) 機械等の点検

機械や工具については、担当者を決め、点検・整備等を適切に実施させること。

(3) 機械の転倒防止

地盤が緩んでいる等不安定な場所で作業を行う場合には、鉄板の敷設等により車両系建設機械、クレーン等の転倒防止を図ること。

作業場所では…

防じんマスクやゴーグルを着用させること。

また、防じんマスクの使用にあたっては、使用前に漏れがないか確認するためのフィットチェックを必ず行った上で適切に使用すること。

がれきの粉じんには石綿が含まれているおそれがあります。

(1) 呼吸用保護具の着用

粉じんを吸い込まないようにするため、呼吸用保護具（防じんマスク（注）又は電動ファン付き呼吸用保護具）を使用させること。

注）使い捨て式防じんマスクは国家検定合格品又は米国NIOSH規格（N95、N99又はN100）適合品を用いること。取替え式防じんマスクは国家検定品を用いること。

なお、屋外におけるがれき処理作業は使い捨て防じんマスクで作業可能ですが、石綿の切断等作業の場合は取替え式防じんマスク、吹付け石綿の除去作業には電動ファン付き呼吸用保護具を使用する必要があります。

(2) 作業場所の湿潤化

粉じんを飛散させないために、原則として、作業を開始する前に建築物等への散水や、薬液の使用により、湿潤な状態とすること。

(3) 関係者以外の立ち入り禁止

関係者以外の者が粉じんにはばく露しないように、被災者等も含め、関係者以外の者の立ち入らせないこと。

(H30.7)

◆詳しくは、最寄りの都道府県労働局又は労働基準監督署にご相談ください。



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

熱中症を予防するために

蒸し暑い環境の中でがれき撤去等の作業をすると、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体内に熱がたまることによって、めまいや筋肉痛、吐き気、けいれんなどを起こす「熱中症」になることがあります。

暑い環境に体が慣れていない、睡眠不足や体調不良などの状態で無理をすると、急に体調をくずし、最悪の場合死に至ることがあります。

熱中症を予防するため、以下の点に気を付けましょう。

① こまめな休憩やクールダウン

日陰などの涼しい場所で、**こまめに休憩**を取りましょう。

おしぼりなどで、身体を適度に冷やしましょう。

② 水分・塩分の補給

トイレに行きにくいからと**水分を控える**と非常に危険。飲料水や塩飴などにより、**のどが渴いていなくても、定期的に水分・塩分の補給**をしましょう。



③ 熱中症になりやすい条件

蒸し暑い環境に体が慣れるまで、**およそ1週間**かかります。作業を始めた週は、こまめに休憩を取りましょう。

睡眠不足、体調不良、飲酒などにより熱中症になりやすくなります。その日の健康状態を確認しておきましょう。



④ もしもの時の備え

緊急時に対応できる病院、診療所の場所、連絡先を確認しておきましょう。

熱中症は、**症状が急激に悪化**することがあります。体調が悪い人はすぐに休ませ、一人にしないようにしましょう。

もしも自力で水が飲めない場合、意識がない場合には、**すぐに救急車を呼ぶか、医療機関にかかりましょう。**

